



パターンランゲージによる方法知の可視化 －国語科の教科内容をわかりやすく－

教育学部 准教授 富安 慎吾

授業「国語科コミュニケーション教育」では、簡単には理解しにくい国語科の教科内容（国語科において学ぶことになる「言語の運用の仕方＝方法知」）についてパターンランゲージという手法を用いて可視化する活動を行っています。

パターンランゲージでは、方法知を「言語環境に存在する原因によって生じている問題を解決する方法」であることがわかるようにカード化することで、“なぜ”その方法を使うとよいのか、ということが、教えることになる教師にも、学ぶことになる学習者（児童・生徒）にも理解しやすくなっています。

国語科の教員を目指す学生が受講するこの授業においてパターンランゲージという手法を学ぶことは、方法知を一部の人だけに専有されるものとせず、誰もが理解し学ぶことができるものにするを志行する点で、「質の高い教育をみんなに」を目指す取り組みとなっています。

わからない宣言		21
		十分に吟味した結論を出したい
#発言を聞くときに		
背景		問題
<p>⊖ 思考過程の違い</p> <p>参加者それぞれの思考の道筋は異なっているため、簡単にすべての思考過程を共有できるわけではない。</p> <p>⊖ 「自分だけ」不安</p> <p>わからないことがあっても、自分だけがわかっていないのではないかと不安になり、ついそのままにしてしまう。</p> <p style="text-align: center;">その一方で</p> <p>⊕ 質問されることでわかる</p> <p>話しているほうも、いざ質問されることでじっくり考え、自分自身の理解が深まることもある。</p>	話の流れについていけず、いつの間にか自分が理解できない結論が出てしまっている。	
そこで	わからないことを聞いたときにわかったような顔をせず、ちゃんと「わからない」と言うようにする。	解決
<p>・相手の主張は理解できたが、その主張を支える理由がわからないときには、「その理由は？」「どうしてそう思うの？」ということをつねるようにする。</p> <p>・場が停滞して、何がわからないのかわからない状態になりつつあると感じたら、まずリセットしてわかっていないこと（決めたこと）を確認するようにする。</p>		

